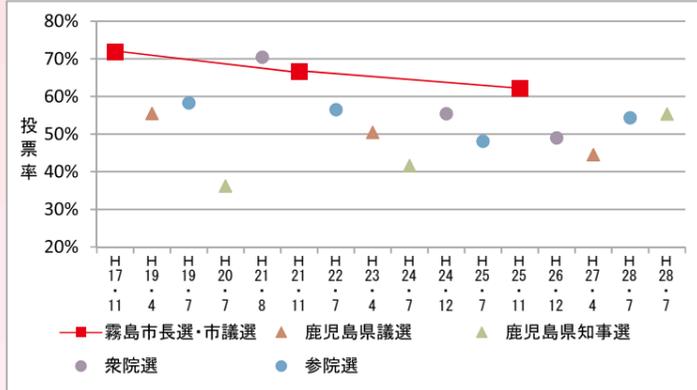
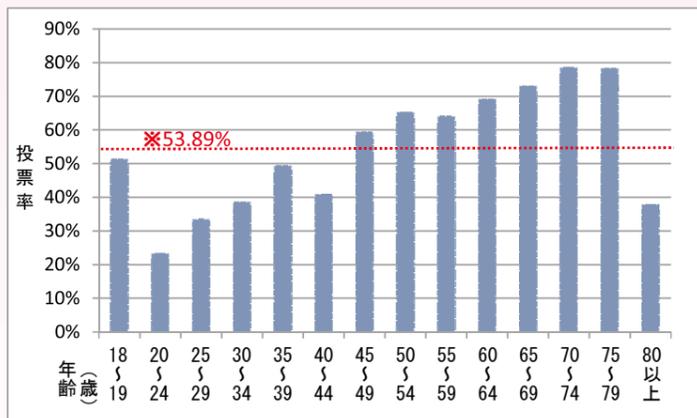


(図表1) 霧島市合併後の各選挙の投票率



市長選、市議選の投票率は下降傾向です。
※平成29年10月10日現在の有権者数 103,363名

(図表2) 平成28年7月鹿児島県知事選挙の年齢別投票率 (市内の1投票所)



18歳選挙が始まった最初の選挙です。18、19歳の投票率はほぼ平均ですが、特に20代、30代の投票率が低いです。
※当該投票所の平均投票率

みんなの思いを描く 霧島市へ

来る11月12日、霧島市長選挙、霧島市議会議員選挙が告示され、19日に投開票が行われます。

これからの4年間、どの候補者に市長を託すのか、誰に議会を任せると決めるかを決める大事な選挙となります。

市議会は、合併時の48名から、34名、そして現在は26名と、議員定数の削減を図ってきました。市民の方々が、議員と接する機会も少なくなってきたことと思います。

そのため市議会では、「議員と語ろかい」と題し、年2回計16回にわたって、各地区の自治公民館を通じて意見交換会を、同じく年2回、市内の団体・グループを対象とした公募型の意見交換会を開催してきました。

この「議員と語ろかい」の場に出された内容が、実際に、一般質問のテーマとなり、各常任委員会での所管事務調査の対象課題となっているものもあります。

また、議会だよりでは、定例会の内容を報告するとともに、市民の皆様特にお知らせしたい内容(特集記事)や、「議員と語ろかい」の結果、「議会のなげ・何にお答えします」などを掲載してきました。

このようなことから、霧島市議会は、「早稲田大学マニフェスト研究会」が調査している議会改革度ランキングで、調査回答のあった全国約1400の都道府県・市区町村議会中、上位5%以内(60位前後)を維持しているとも言えます。

上のグラフをご覧ください。
図表1は、霧島市の投票率です。市長・市議会議員選挙の投票率は、回を追うごとに下がっている状況です。また、**図表2**の年齢ごとの投票率をみると、20代、30代の投票率が低いことが分かります。

市の自治は、あくまでも市民が担っています。皆さんの思いや、一票が、これからの霧島市の方向性を決めていくのです。市民の力を結集し、よりよいふるさとを築いていくためには、一人ひとりの思いが、市政にしっかり届く市長・議員を選んでいかなければなりません。我がまち霧島市のすばらしい未来を描きながら、ご自身の思いを一票に託してください。